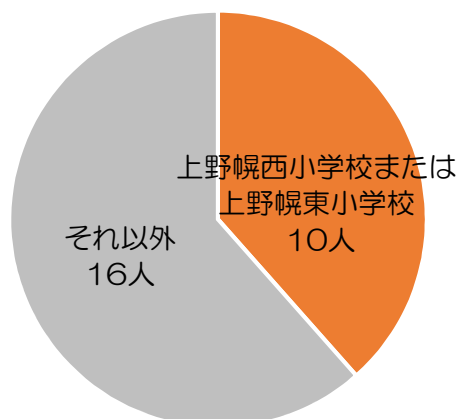


ノホ口の丘小学校における  
「新しい小学校になったことについてのアンケート」

教員 結果

【質問1】 ノホ口の丘小学校に勤務される前の学校はどちらですか。

<択一回答>



【質問2】（児童の様子の変化について）

ノホ口の丘小学校が開校して、9か月が経過します。旧上野幌西小学校・上野幌東小学校当時や、開校当初と比較し、児童の様子はどのように変わりましたか。良い点や今後配慮を要すると思われる点等について、お答えください。

児童の様子・生活面や学習面に関すること

- 全校の雰囲気として、子どもたちが生き生きとしている姿があり、よかった。
- はじめは、戸惑いや不安も見られたが、思ったよりも早い段階で子どもたちは交じり合えたように思う。
- 通学距離が長くなった子たちは、朝の出足が遅い時が見られる。
- 4月当初は、子どもたちの雰囲気の違いがわかった。しかし、1学期中には元の学校ではなく、「ノホ口の丘」の子どもたちになったように思う。子どもたちには元〇〇小という認識はあまりないように思える。
- 担任として、出身校ごとの隔たりを感じることはなかった。
- 元の小学校から来ている先生方の取組により、子どもたちはノホ口の丘小でも良好な友人関係を築けており、学校全体の雰囲気も落ち着いている。
- 全体的に学校に慣れ、友人関係が広がり、活気がある。

- 開校当初は前の学校とのルールの違いに戸惑う児童がいたり、友人関係が元の小学校で分かれているように感じるがあった。しかし、最近は新しい学校のルールに慣れ、元の小学校に関係なく遊ぶ姿が見られるようになった。
- はじめは、「新しい学校」という意識が薄かったように感じるが、現在は今のルール、行事、友人関係を大切にする子が増えたと思う。
- 委員会などの様子を見ていると、上野幌東小の子の方が安心して過ごしているように見えるときもあった。
- 開校当初は、緊張感から自分を出せなかったり、周囲の様子を伺いながら、遠慮がちに生活する子も多かった。今は、徐々に慣れてきて、伸び伸びと過ごせるようになってきた。逆に、新しい学校で頑張りたい、という良い意味での緊張感や意欲は、半年を過ぎても継続している。
- 子どもたちは出身校に関係なく、仲よく過ごしている。
- 友人関係を築くことが苦手な子にとっては、かなりの負担を感じる変化だったと思う。しかし、開校から9か月が経ち、子ども同士の関わりはとてもよくなっている。
- 新しい環境で、当初はトラブルなども見られたが、互いに協力し合って学校生活を送る様子が見られてよかったと思う。
- 開校当初のざわついた雰囲気は随分落ち着いたと思う。
- 新たな出会いや交友関係の広がりや、遊ぶ場所（公園など）も広がっているようだが、きちんと時間も気にして遊んでいるようだ。
- すっかり慣れたように見える。友人関係も広がりを見せ、統合による悩みやいじめなどは見受けられない。
- 子どもにとってのメリットデメリットはあると思うが、メリットの方が多いと考える。今まで周囲に抱かれていたイメージにとらわれることなく、新たな気持ちで関わってもらうことで、楽しく、朗らかな関係が生まれていた。
- 友人関係を良好に築けたことや、学習へ参加しようとする気持ち、集団としての高まりなど、生き生きと伸び伸びと生活している様子が見られ、統合によるプラス面は非常に多いと感じる。
- 出身校に関わらず、打ち解け遊ぶ姿が見られる。緊張がとけることで、トラブルも見られるようになった。
- 開校当初は、人数が増えたことにより、子どもの中に少し緊張感があった。特に上野幌西小出身の子は環境が大きく変わり、慣れが必要だったが、今は落ち着いてきている。
- 開校当初に心配していた、出身校の垣根は感じられない。元の学校を懐かしがる感想は時々聞くが、「戻りたい」と言う子はいない。
- 開校当初は、相手校への先入観が強かったが、現在では子ども同士がお互いをよく理解し、混ざりあっている。

## 指導や学校運営に関すること

- 子ども同士は仲よくなるのにさほど時間はかからなかったが、高学年では、出身校を気にしている節を最初の数か月感じた。そういう微妙な雰囲気を感じて、教員がサポートする必要があると感じた。
- 友人関係で、まだ出身校に囚われている子もいるように感じており、全員遊びなどで関わりを強化する必要があると思う。
- 4月に比べ、学習面、対人面ともに慣れが感じられる。翌年度に向け、学級だけでなく、学年交流も大切にしたいと思う。

### 【質問3】（教員の取組等について）

ノホ口の丘小学校を開校するにあたって、開校前・開校当初から様々な取組があったことと思います。これまでの取組について、具体的にどのようなものがあり、どのように対応されたか、良かった点や今後の取組に向けた改善点などについてお聞かせください。

#### 児童への取組

- 新設校としての意識付けを行うため、校歌を歌う機会を工夫して多くつくった。
- 開校前の両校の交流会では、交流会の企画を考える活動をしなが、新しい学校や友だちとの出会いを前向きに楽しめるように働きかけた。
- 子ども同士、よりよい関係を築けるように（一方で、教員が深く関わりすぎないように）取組を行った。

#### 学校づくりの取組

- 運動会や学習発表会など全校に関わる行事は、収容人数を考えるのが難しかった。基本的にはゼロスタートの方がうまく行くと、事情によっては以前の学校から引き継ぐものがあったとしても良いのかな、と思った。
- 学級編成など熟考したが、実際に混ぜてみなければわからないこともあった。
- 開校に向けたビジョンや目指す子ども像、現在の子どもの像の共有など時間が足りなかった。
- 通学路変更に苦労した。集団下校がすぐに控えており、慌てることもあった。
- 集まった先生方がよかったし、校長教頭の事前準備もあり、開校に向けた動きは大変だったが、「このメンバーなら乗り切れる」と自信を持てた。
- PTA設立準備委員会、合同スクールゾーン委員会、学校説明会、閉校式、開校式、惜別祝賀の会、とたくさんの準備があった。
- 校務分掌の立ち上げや、通知表の内容の検討などを行った。
- 出身校がどちらの学校か、という意識や言葉を出さないように心掛けた。
- 新旧職員が一堂に会し、感謝やねぎらいを伝えたいと、学校を「引き継ぐ」ような取組をしてもよかったと思う。
- 開校初年度である今年度の取組を経て、再構成することでノホ口の丘小が完成すると考える。
- 行事の目的などをその都度保護者へ伝えていくことで、「新しい学校」というアピールになったように思う。

- 教職員同士で、足りない部分を補い合いながら取り組むことができたことがよかったと思う。
- 2月、3月と校務分掌の話し合いや開校式、それぞれの役割分担の確認、校歌の練習、と検討を重ね、定期的な打合せを行ったことで、検討が進んだだけでなく、教職員同士の連携や絆が深まったのがよいと思う。一方で、異動してしまう先生との接点などが少なかったことは改善の必要があると思う。
- 子どもも教職員も「新しい学校」という気持ちだが、周囲がやはり前の学校に想いがある様子が伺え、課題と感じる。

#### 事務的な取組

- とにかく、すべての物を片付けたり廃棄する作業を少人数で行うのは本当に大変だった。
- 開閉校がなければ生まれなかった仕事が多かった。引越し作業や工事を考慮しての学校の動きの細かな調整など、その都度考えての繰り返しで、負担は大きかった。
- 仕方ない部分もあるが、開校までの事務的作業や会議などは、自分が在籍している学校との二重業務となり、負担が大きかった。
- 開校と閉校を同時に行うため、片付けや廃棄作業など業務負担は大きかったが、先生方一人一人の力でいい開校を迎えられたと思う。
- 引越し、廃棄などの業務が大変だった。業者をお願いできないかな、と感じた。

#### 【質問4】（その他）

質問2・3のほか、学校統合についてご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

- 子どもが不安に感じないような対策を考えることが大切だと感じた。
- 統合に関わる仕事に加え、日常業務もあり、教職員の負担は大きかった。
- 子どもにとっては友人関係も広がり、新しい学校でのスタートは大変いい機会になっていると思う。良い面もあるが、少人数の単学級より、多くの友人や先生に出会い、学べる環境は、子どもたちが生き生きしているように感じる。
- 改修工事で体育館が使えないのは子どもたちがかわいそうだった。何か工夫があればと思う。
- 子ども同士の事前交流は多い方が、不安を減らすことができると思う。
- 学校を取巻くすべての人々の意識改革、新しい学校が開校したのだ、という考えが大切だと思った。
- 子どもはもちろんだが、保護者へのサポートも大切だと感じた。
- 固定化した人間関係から開放され、本来の自分らしさを発揮している子が多い。中学校進学に向けての安心感にもつながったと思うので、今回の統合はとても意味のあるものだったと思う。